

【DX担当者必読】

業務効率化ツール 導入で実現する 時短 & ROI向上

完全ガイド

“

失敗しない選定と
社内浸透のポイント

”

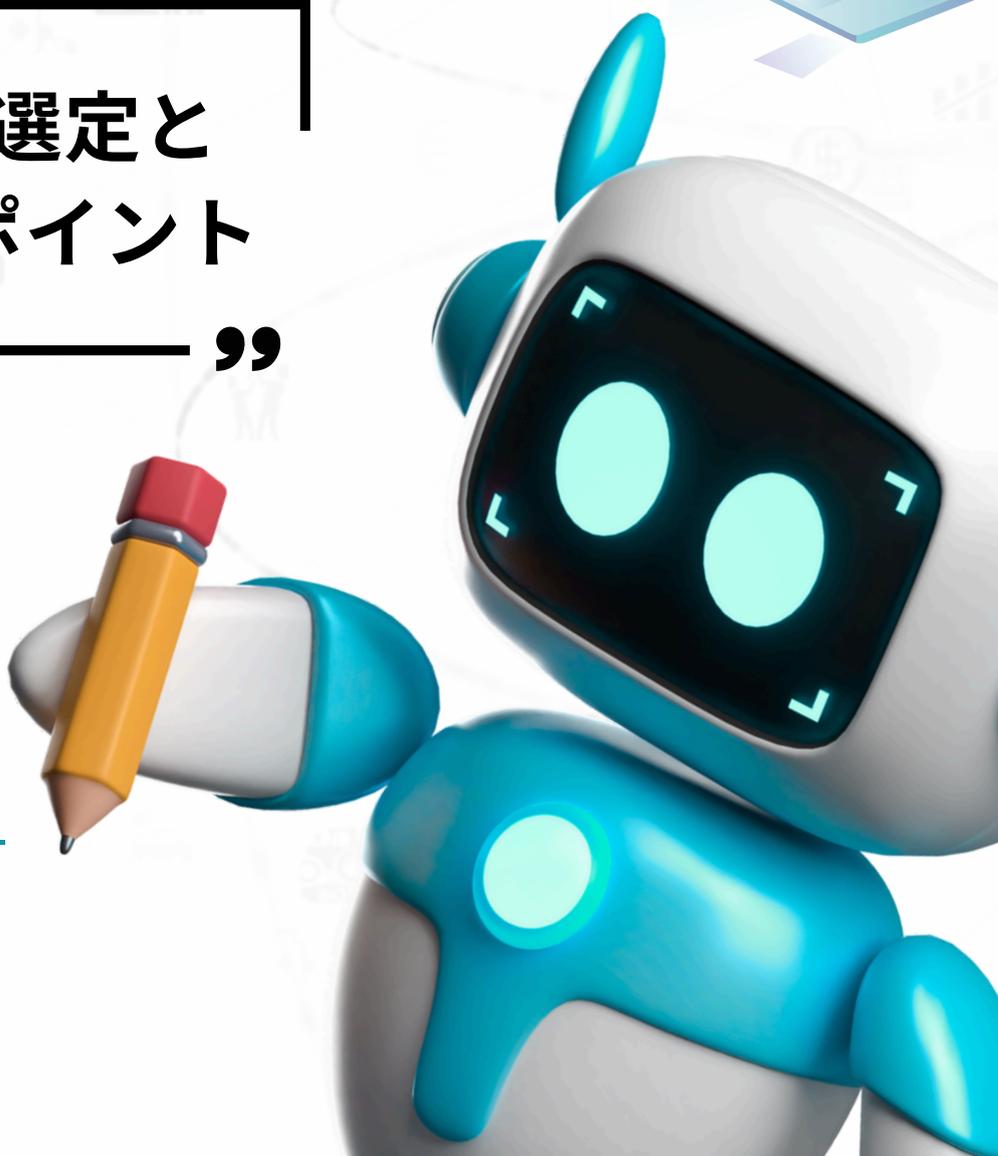
株式会社リベンリ

メディア事業部 山内慎太郎

FREE IDEAS

Libenri

USEFUL PRODUCTS



CONTENTS (目次)



- 01. はじめに | なぜ今、業務効率化とROIがDX担当者に求められるのか
- 02. 業務効率化ツールで本当に効果が出る領域とは？
- 03. ROI・時短効果を“見える化”する方法
- 04. なぜ現場が反発するのか？DX浸透の壁を突破する3ステップ
- 05. 教育・研修コストを削減するAI活用の実例
- 06. よくある導入失敗パターンと回避策
- 07. 事例紹介 | 現場が変わった3つの実践例
- 08. Litera Appのご紹介 | “現場に刺さる”業務効率化の決定版
- 09. 特別付録のご案内
 - ① DXツール55選 ② 稟議書 ③ 上長報告書

はじめに | なぜ今、業務効率化とROIがDX担当者に求められるのか

「このツール、本当に会社のためになるのか？」——

DX推進を任されたあなたは、そんな一抹の不安を感じたことはないでしょうか？

DXツールの導入は、単なるIT投資では終わりません。リテラシーの差、現場の反発、教育コスト、経営層からのROI圧力…。日々の本業と並行してこうした課題を乗り越え、「効果を数字で証明しろ」と求められるのが、今のDX担当者のリアルです。

本資料は、そうした“橋渡し役”を担うDX推進担当者の皆さまに向けて、**業務効率化ツールを「使わせる」「成果につなげる」ための実践的なヒント**をまとめたものです。

特に以下のような悩みを持つ担当者様に最適な内容になっています。

- どんな業務領域にDXツールが効果的なのか、いまいち掴めていない
- ROIや時短効果をどう「数字」で語ればいいのか悩んでいる
- 「また新しいツールか」と現場に敬遠されるのが目に見えている
- 社員のリテラシー差や教育コストをなんとか軽減したい
- 上申や稟議で通る説得力ある資料がほしい

「定量効果」と「現場への定着」の両方を実現したい方は、ぜひ最後までご覧ください。本資料が、あなたの施策を“確実に成果へ導くための一助”となれば幸いです。

業務効率化ツールで本当に効果が出る領域とは？

DX推進における“あるある”のひとつに、「効果が出そうな業務」だけを狙い、結果的に見込み違いに終わってしまうケースがあります。その背景には、業務の“見えやすさ”と“削減しやすさ”は必ずしも一致しないという事実があります。

たとえば、「紙のやり取りを電子化する」「勤怠管理をクラウドに置き換える」といった業務は、わかりやすくDX感がありますが、すでにある程度効率化が進んでおり、劇的な時短効果やROIにはつながりにくいこともあります。

見落とされがちな「積み上げ型のムダ」

本当に狙うべきは、日々のPC作業やOffice操作など、現場で無意識に繰り返される業務です。

- 何気なくやっているExcelのコピー＆ペースト
- WordやPowerPointでの図表調整
- メールのファイル添付や分類作業
- データ検索や書式整形といった、単純だが手間のかかる動作

こうした作業は、1回あたりの時間はわずかでも、**「1人あたり月120分、年間で24時間」**というレベルで積み上がります。そしてこれは、100人いれば年間2,400時間という膨大な“労働コスト”のムダになります。

一方で、これらの業務は見えにくく、ツール導入の優先度が下がりがちです。だからこそ、“見えないムダ”を見える化し、着実に削減していく領域こそがROI向上のカギになります。

🕒 効果の出る領域は「業務の見える化」から始まる

業務改善の基本フレームワークに「ECRS（排除・統合・再配置・簡素化）」がありますが、まず着手すべきは以下の3ステップです。

1. 業務の棚卸し（業務プロセスの可視化）

→ 各部署や職種ごとに、日常的に行っているPC業務を洗い出す。

2. ボリュームと負荷の高い作業を特定

→ 頻度 × 時間 × 担当者数で、インパクトの大きい業務を見極める。

3. 改善可能な業務にツールを導入

→ “AIによる操作支援”などのテクノロジーで、実作業の時間を削減する。

このように、派手な改革ではなく、地味で膨大な「PC上の作業」こそが改善余地の宝庫です。

棚卸



特定



導入



ROI・時短効果を“見える化”する方法

DXツールを導入する上で、「効果をどう証明するか」は避けて通れないポイントです。

ツール導入にかかるコストは目に見える一方で、得られる効果は見えにくく、上長や経営層の承認が下りにくい…。そんな状況に心当たりのある方も多いのではないのでしょうか。

そこで必要なのが、**時短効果やROI（投資対効果）を「数字」で語れるロジック**です。

「月120分 × 社員数 × 時給」で見える効果

たとえば（弊社の例で恐縮ですが…）、Litera App（リテラアップ）が実現する**「月120分（=2時間）」の削減効果**を用いた試算は非常に説得力があります。

▼ 効果の算出例

- 平均時給：2,202円（年収458万円・年2,080時間労働換算）
- 削減時間：1人あたり月120分 → 年間24時間
- 導入人数：100名

この場合、 $2,202円 \times 24時間 \times 100人 = 約530万円$

これが、**年間で削減可能な労働コスト（または経済効果）**になります。

仮に初年度の導入費用が190万円だったとしても、

ROI（投資対効果） = [効果 ÷ 費用] × 100 = 178%

つまり、**1円の投資で1.78円のリターン**があるという、非常に効率的な投資になります。

ROIを「社内説得の武器」にするには

経営層や稟議承認者にとって、「業務効率化」や「働きやすさ」では決裁しづらいのが実情です。そんなとき、**数式と金額で語るROI**は、以下の点で効果的です。

- 「投資額」と「回収可能な効果」が明示できる
- 上司への説明資料や稟議文書に使いやすい
- 現場部門ごとのシミュレーションにも応用できる

特に、**費用対効果（ROI）**に敏感な部課長や情報システム部門との連携では、この数字ロジックがあるだけで、導入判断が一気に前向きになります。

🔍 ツール導入効果を可視化する

弊社では、「Litera App（リテラアップ）」の導入をご検討いただく企業様向けに、**効果を数値で把握できる専用の試算フォーム**をご提供しています。

✔ LiteraApp導入純効果&ROI試算フォーム

[WEB版](#) | [Excel版](#)

このようなフォームを活用することで、導入による「**業務時間の削減**」や「**ROI（投資対効果）**」を具体的な数値で可視化でき、効果が見えにくい業務効率化ツールであっても、**稟議書や上長向け報告書に高い説得力**を持たせることが可能になります。



数値で
見える化



なぜ現場が反発するのか？ DX浸透の壁を突破する3ステップ

DXツールを導入しようとするすると、多くの現場で最初に直面するのが“反発”です。これは特別なことではなく、どの企業でも起こりうる「DX担当者あるある」のひとつです。

😞 よくある現場の反応

- 「また新しいツール？覚えるのが面倒くさい」
- 「業務の邪魔になるんじゃないか？」
- 「どうせすぐ使われなくなるでしょ」
- 「管理部門の押しつけだよね」

こうしたネガティブな声の背景には、現場特有の“心理的ハードル”と“業務上の制約”があります。



DXが定着しないのは「使えない」からではない

多くの場合、ツールのスペックやUIの良し悪しではなく、組織文化や心理的な障壁が浸透を妨げています。

✳️ **スキル差**：若手とベテランでPCリテラシーのギャップがある

📦 **慣れの壁**：「今のやり方で不便を感じていない」現場の空気

🕒 **タイミングの悪さ**：繁忙期と導入時期が重なると“邪魔”扱いされやすい

目 成功企業が実践する「現場定着の3ステップ」

DXの定着に成功している企業には、共通して以下の3つのステップが見られます。

ステップ “小さく始めてまずは1勝”をつかむ

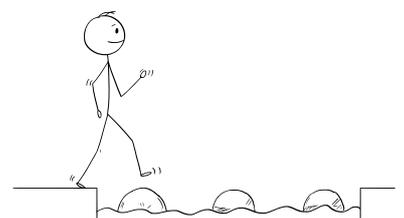
全社展開をいきなり目指すのではなく、一部部署や限定業務で試験導入し、「便利」「助かる」といった現場のポジティブな声＝小さな成功体験を生むことが先決です。

ステップ 現場の“声”を反映する

使いにくい点や違和感のある操作性など、現場のフィードバックを反映し、「自分たちが選んだツール」という感覚を持ってもらうことで、主体的な参加意識が生まれます。

ステップ 「覚えさせない」導入スタイルを選ぶ

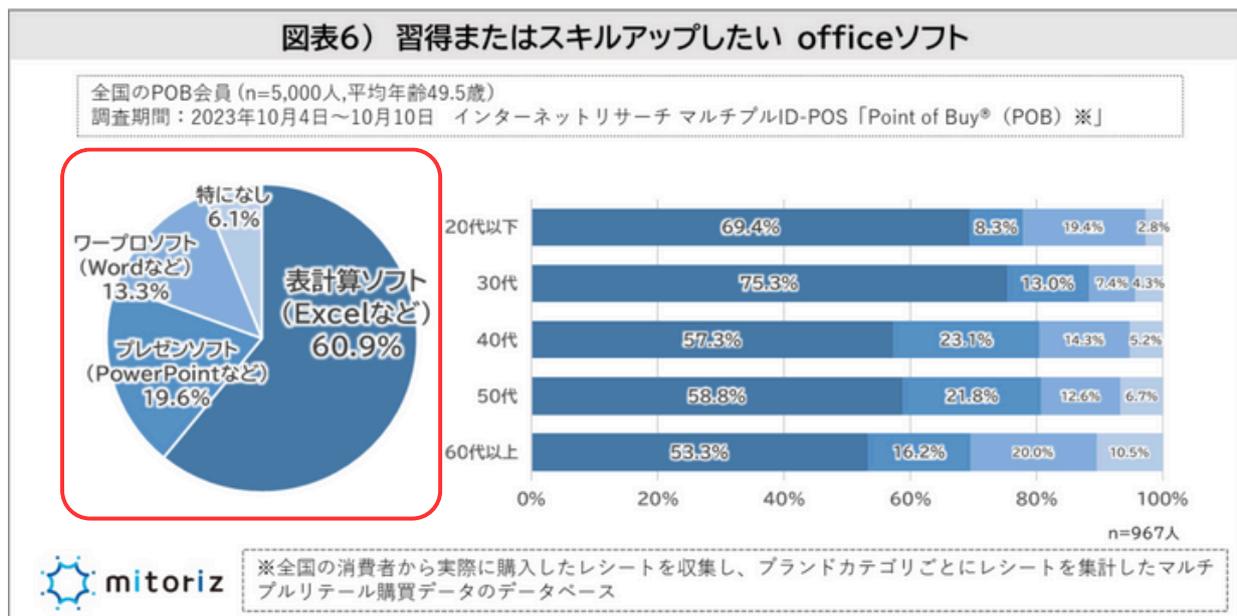
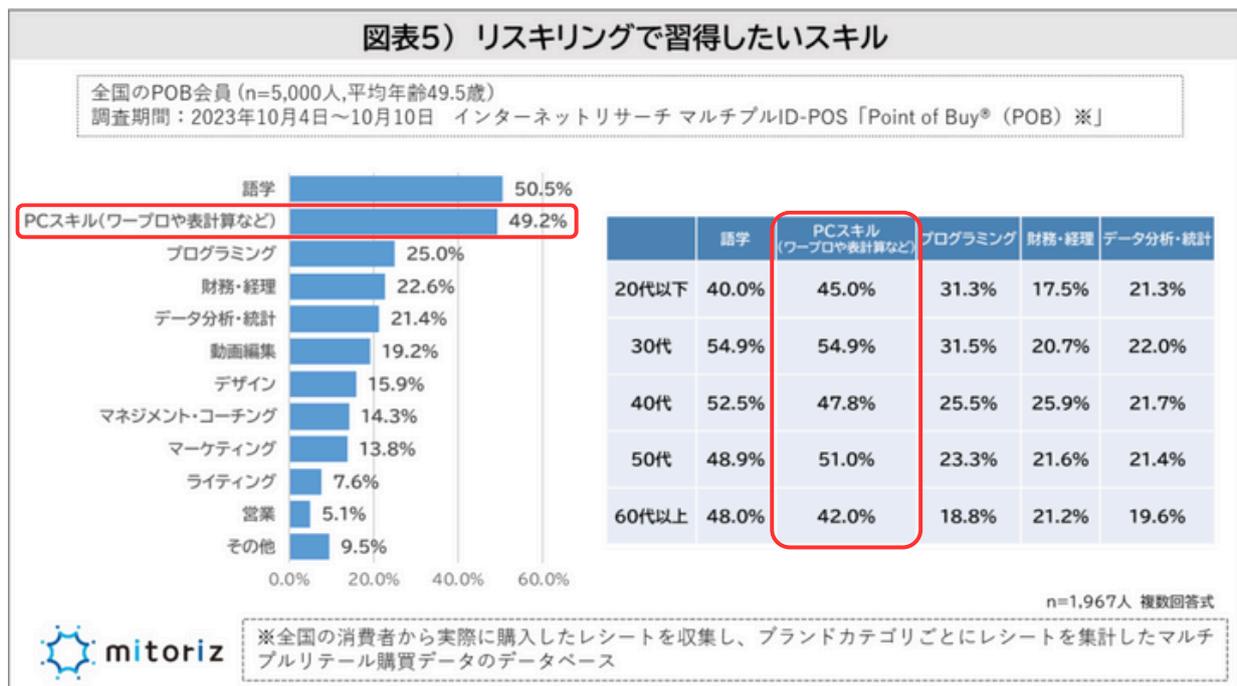
社内研修やマニュアルに依存せず、リアルタイムで“その場で支援”するアプローチが効果的です。とくにAI型のアシストツールのように、個人のスキルレベルに応じて自動でサポートするタイプは、リテラシーのばらつきが大きい現場でもスムーズに定着します。



📌 補足：「使われる理由」は“便利”だけじゃない

ツールが本当に使われるためには、「これは自分の仕事に役立つ」と実感できることが必要です。指示されて使うのではなく、「これがあって助かる」と現場が自発的に思える構造をつくるのが、最も確実な定着策です。

📄 参考資料：「リスキングで習得したいスキル」



出典：株式会社mitoriz「リスキングに関する調査」

教育・研修コストを削減する AI活用の実際

DXツール導入の障壁として、多くの企業が頭を悩ませるのが「教育・研修コスト」です。せっかく良いツールを導入しても、「覚えるのが面倒」「研修の時間がとれない」といった理由で現場に定着しない。この“学習の壁”を乗り越える鍵が、「教えなくても自然に覚える」という新しい仕組みです。

✦ 研修負荷の現実とAI導入の転機

従来型



集合研修



マニュアル共有



講師依存



高コスト

AI支援型



日常業務中にリアルタイム支援



研修負荷ゼロ

✦ リアルタイム支援型AIの特徴とは？

従来の集合研修やマニュアル配布では、以下のような課題がつきものでした：

- 研修を開いても一度では身につかない
- マニュアルを読んでも“今の作業に役立つ情報”が見つけれない
- ベテランや忙しい社員ほど「学ぶ時間がない」と敬遠する

こうした問題を根本から変えるのが、**リアルタイム支援型のAIアシストツール**です。

リアルタイムAIアシスト型のツールでは、以下のような支援が自動的に行われます：

- ✓ PCの画面操作を解析し「その操作に合ったショートカットや効率化方法」を表示
- ✓ Excel・Word・PowerPointなどの作業中に“その場で”ヒントを提示
- ✓ 利用者のスキルレベルや使用頻度に応じて、表示内容を自動最適化

つまり、**日々の業務をこなしながら自然と時短スキルが身につく構造**になっています。

♻️ AIアシストツールのフロー



業務中の操作



AIが検知



ユーザーが活用



学習定着

✂ 既存の教育との併用・置き換えも可能

リアルタイム支援型AIは、既存の研修・教育施策と組み合わせて使うことも可能です。

✓ 組み合わせパターン：

- 導入初期のみ集合研修を実施 → 以降はAIに委ねる
- OJTにAIアシストを併用し、新人教育の手間を軽減
- 「よくある質問」や「定型的な操作」をAIに任せて、管理部門の負担を削減

これにより、研修・教育の人件費・拘束時間・離脱率を大きく削減できます。

✓ 教えずに“できる”を実現する新しい学習スタイル

「一斉に学ばせる」のではなく、「必要な人に、必要なときに、必要な情報だけを届ける」——この考え方が、現場に負担をかけずにツールを定着させる最短ルートです。



よくある導入失敗パターンと回避策

「良いツールなのに、なぜ定着しないのか？」

業務効率化ツールの導入で成果が出ないケースの多くは、「ツールそのものの問題」ではなく、**導入プロセスの設計ミス**にあります。

本章では、ありがちな失敗パターンを整理し、現場に定着させるための実践的な回避策をお伝えします。

導入失敗パターン VS 回避策

| 失敗パターン | 原因 | 回避のポイント |
|-------------------|--|--|
| ツールを配布ただけで使われない | <ul style="list-style-type: none"> 周知不足 利点が伝わっていない | <ul style="list-style-type: none"> 実業務に絡めた導入 利用メリットの体感 |
| 「覚えるのが大変」と敬遠される | <ul style="list-style-type: none"> 操作が複雑 教育不足 | <ul style="list-style-type: none"> リアルタイム支援 段階的習得を促すUI設計 |
| 管理職だけ導入して現場に波及しない | <ul style="list-style-type: none"> トップダウン型の押し付け | <ul style="list-style-type: none"> 「使う人」が主役になるボトムアップ型展開 |
| 成果が曖昧で費用対効果が不明 | <ul style="list-style-type: none"> 効果測定の準備がない | <ul style="list-style-type: none"> 事前にKPI・ROI算出式を設定する |



1. よくある誤解：「ツールがよければ、勝手に使われる」

誤解：導入するツールが優れていれば、自然と社員に使われる

現実：ほとんどの社員は“自分の仕事”に関係ないと感じた時点でスルー

▶ 回避策

- 現場の業務フローに組み込む設計を行う
- 小さな成功事例（例：作業時間短縮）を見える形で社内展開
- 現場代表者（ツール伝道師）を任命し、活用を促進

2. 過剰な期待と押し付けによる反発

「これを使えば、明日から業務が変わる！」…という上層部の期待とは裏腹に、現場では「また面倒なものが来た」という空気が流れがちです。

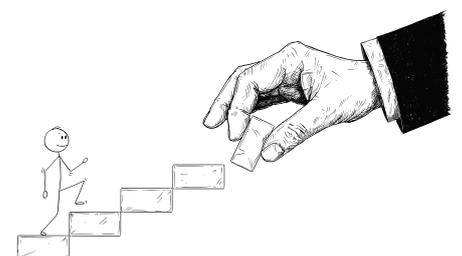
▶ 回避策

- 段階的な導入（最初は一部チーム → 徐々に拡大）
- 成果が見えた時点でトップダウンで支援を得る
- 必要以上に“変化”を求めすぎず、「今の業務の延長」で改善できる設計に

3. 成功企業に共通する「社内文化に合った導入設計」

ツール導入で成功している企業は例外なく、自社の現場文化や社員気質を考慮した展開設計をしています。

- 現場の不安・不満を事前ヒアリング → 「期待と懸念の見える化」
- よく使う機能だけを先に解放 → 小さな“気づき”を積み上げる
- 社内イントラ・チャットなどで“使い方Tips”を継続発信



🌐 成功には「技術」より「設計」

導入に失敗した企業の多くが、「良いツールを買ったのに使われなかった」と語ります。

成功した企業は、「現場に合う設計をしたから、自然に使われた」と語ります。

ツールの善し悪し以上に、どう“届けるか”の設計が成果を左右する——これが、導入設計におけるもっとも重要なポイントです。

🚫 失敗パターン



👍 成功パターン



事例紹介 | 現場が変わった3つの実践例

「現場には浸透しない」「現場が使ってくれない」——これはDX推進担当者が直面する代表的な悩みです。

しかし、実際に現場の課題に即した工夫を凝らし、成功を収めている企業も多数存在します。

ここでは、**建設・製造・流通**の3業種における事例をもとに、**どのように現場に受け入れられ、成果が生まれたのか**をBefore／After形式でご紹介します。

業種や規模は異なっても、再現性の高い工夫や導入プロセスのヒントが詰まっています。



事例1：建設業A社 – 現場作業の事務負担を削減

Before：現場作業員が日報や進捗報告を手書きで記入し、事務所に持ち帰って入力する手間が発生。その後、上司が内容を確認し、システムに入力するため、情報の伝達に時間がかかっていた。

After：タブレット端末を使用し、現場作業員が直接データを入力。情報はリアルタイムで事務所に送信され、上司は即座に確認できるようになった。

担当者の声：「現場の進捗が即座に把握できるようになり、事務作業の時間が大幅に短縮されました。また、手書きの内容確認や入力ミスの削減にもつながり、業務効率が向上しました」

事例2：製造業B社 – 生産ラインの品質管理を強化

Before：品質チェックリストが紙で管理されており、記入漏れや誤記が発生。不良品の発生時に原因追跡が困難で、再発防止策の立案に時間がかかっていた。

After：タブレット端末に品質チェックリストをデジタル化し、入力内容は自動でデータベースに保存。不良品の発生時には、関連するデータを迅速に検索・分析できるようになった。

担当者の声：「品質管理の精度が向上し、不良品の発生原因を迅速に特定できるようになりました。再発防止策の立案もスムーズになり、品質向上につながっています」

事例3：流通業C社 – 在庫管理の精度を向上

Before：在庫管理が手作業で行われており、棚卸し時に在庫数の誤差が発生。商品が欠品したり、過剰在庫となることがあり、販売機会の損失や廃棄ロスが発生していた。

After：バーコードを読み取ることで、在庫数がリアルタイムで更新されるシステムを導入。在庫状況を即座に把握できるようになり、発注・補充のタイミングを最適化できた。

担当者の声：「在庫管理の精度が向上し、欠品や過剰在庫のリスクが減少しました。販売機会の損失や廃棄ロスも減少し、業務の効率化とコスト削減につながっています」

これらの事例に共通するのは、現場の実態に即したデジタルツールの導入と、現場スタッフの負担を軽減する工夫です。これにより、業務効率が向上し、現場での定着が実現しています。

Litera Appのご紹介

～“現場に刺さる”業務効率化の決定版～

DXツールの多くは「機能は優れているが、現場に浸透しない」という壁に直面します。

Litera App（リテラアップ）は、その壁を乗り越える“定着しやすさ”と“定量効果の明確さ”を両立した「業務効率化支援ツール」です。

Litera App（リテラアップ）とは？

Litera Appは、PCやOffice操作中にリアルタイムで操作の最適化をアドバイスする、現場密着型のAI支援ツールです。

ユーザーの操作を常時モニタリングし、「その操作、こうすればもっと早いですよ」と自然なタイミングで時短アドバイスを表示。

Officeに不慣れな社員も、**学ばずに使いながら覚える**ことができ、教育・研修コストの大幅削減にも貢献します。

見える化できる時短効果とROI

Litera Appの導入効果は、これまでの実績に基づき、**「月120分の業務時間削減／人」**が標準。

導入人数と社員の平均時給をかけあわせることで、以下のようにROIが明確に見えるのが特徴です：

次項→  Litera App導入による純効果とROI

Litera App導入による純効果とROI

例：100名導入時の年間効果シミュレーション
 ※平均時給2,202円の場合（年収458万円で計算）

| 項目 | 数値 |
|-------------------|-----------------------------|
| 削減時間（年） | 2,400時間 (100人×120分×12ヶ月) |
| 削減労働コスト (経済効果) | 約528万円/年 |
| 初年度費用 | 約190万円 |
| 初年度純効果 | 約338万円 |
| 初年度ROI | 178% |

➡ 2年目以降は運用費用のみとなり、ROIはさらに向上（約194%）

 Litera App導入効果の試算フォームもご用意しています

[WEB版](#) | [Excel版](#)



| LiteraApp導入純効果&ROI計算フォーム | | | |
|--------------------------|------------------------------------|------|-----|
| 16 | LiteraApp導入純効果&ROI計算フォーム | | |
| 17 | ※前提条件：LiteraApp導入で月120分/人のPC作業時間削減 | | |
| 18 | ※表示価格はすべて税抜 | | |
| 19 | | | |
| 20 | 社員平均年収 (万円) | 458 | ←入力 |
| 21 | 平均労働時間 (年間) | 2080 | ←入力 |
| 22 | 導入人数 | 100 | ←入力 |
| 23 | | | |

🏆 安心と実績のある導入環境

- 特許取得済の独自AI技術（特許番号：7574524）
- デンソー、ローソン、小林製薬、鹿島建設、ニトリなど、業界を代表する大手企業も続々と導入
- 累計ユーザー数12,000人以上

✉️ まずはお気軽にご相談ください

Litera Appの資料は下記のリンクからご覧いただけます。導入に関するご相談、本資料に関するご意見ご感想など、お気軽に下記メールアドレスまでご連絡ください。

✔️ Litera Appの資料はこちら

[Litera Appご案内資料](#)

✔️ ご相談はこちら

yamauchi.shintaro@libenri.com

株式会社リベンリ メディア事業部
山内 慎太郎 宛



[デジタル名刺](#)

「ムリなく現場に浸透し、成果がしっかり見える」DXを始めませんか？

Litera Appは、現場に優しく、効果を定量化できる、「わかりやすい業務効率化ツール」としてご支持いただいております。この機会にぜひ導入のご検討をいただければ幸いです。

PC作業を効率化して
手元のDX革命を！

作業時間
月120分
削減！

Litera App

累計ユーザー12,000人突破！

特許
取得
No.7574524

詳しくはこちら

【特別付録のご案内】

実務にお役立ていただけるよう、以下の3つの特別付録をご用意していますので、ぜひご活用ください。

🎁 特別付録① | 業務効率化ツールおすすめ55選

「選定の時間を短縮したい」DX担当者向けに厳選用途別に整理された実用的な業務効率化ツールを紹介しています。

記事を読む▽

[業務効率化ツール55選【DX化と生産性向上の完全ガイド】](#)

🎁 特別付録② | 稟議書テンプレート

「上申資料を一から作る時間がない」DX担当者へ Litera App導入の効果試算やROIのロジックを組み込んだ稟議書テンプレートです。

無料ダウンロードはこちらから▽

[稟議書テンプレート](#)

🎁 特別付録③ | 上長報告用プレゼン資料

「説得力あるプレゼンが必要」なDX担当者のために 部門長・経営層向けに構成されたLitera App用プレゼン資料のテキストひな形です。

無料ダウンロードはこちらから▽

[上長報告用プレゼン資料](#)

※稟議書とプレゼン資料はコピーを作成してご利用ください。

※アクセスできない場合や別形式をご希望の方は、お気軽にお問い合わせください。

さいごに | “再現性ある成功”を、 あなたのDXに

業務効率化やROIの改善に「正解」はありません。ですが、“現場が自然に受け入れ、成果が数字で見える”ツールの選び方には、明確なセオリーがあります。

本資料が、あなたのDX推進の一助となり、社内で「成功事例」として評価されるプロジェクトを生み出す一歩となれば幸いです。

ご不明点やご相談は（Litera App導入にかかわらず）、ぜひお気軽にご連絡ください。

私たちは、現場が使いこなせるDXの実現を全力でサポートいたします。

✔ Litera Appの資料はこちら

[LiteraAppご案内資料](#)

✔ ご相談はこちら

yamauchi.shintaro@libenri.com

株式会社リベンリ メディア事業部
山内 慎太郎 宛



[デジタル名刺](#)

PC作業を効率化して
手元のDX革命を！

作業時間
月120分
削減！

Litera App

累計ユーザー12,000人突破！

特許取得
特許番号 7574514

詳しくはこちら

業務効率化ツール導入で実現する
時短 & ROI向上完全ガイド

Digital Transformation & Business Efficiency

THANK YOU

FREE IDEAS
Libenri
USEFUL PRODUCTS

発行元：株式会社リベンリ（メディア事業部 山内慎太郎）

📍 251-0041 神奈川県藤沢市辻堂神台2丁目2-1 アイクロス湘南8階

✉ yamauchi.shintaro@libenri.com

☎ 080-4109-2957

🌐 <https://litera.app>

免責事項：本資料の内容は2025年6月時点の情報に基づいており、今後変更となる場合があります。